

令和6年度 行政評価（令和5年度対象）に係る外部評価

- 令和6年7月31日及び令和6年10月21日に開催した清須市行政改革推進委員会において、施策評価を中心として、評価の妥当性・客観性の確保を主眼に、外部の視点からの評価（外部評価）を実施した。
- 外部評価にあたっては、今後の施策の展開に向けて、特に清須市行政改革推進委員会での意見聴取が必要な3施策（37施策中）を対象とした。
- また、外部評価における意見について、それに対する今後の市の考え方等を整理した。

1 「施策102 防災・減災対策の推進」について

No.	委員会での意見	意見に対する考え方【関係所管課】
1	「Ⅱ 達成度指標の状況」において、6項目の指標に対し、4項目において目標値の達成見込や達成状況が三角と課題があるということが分かる。「Ⅴ 施策の評価と今後の方向性」において、この三角をどのようにしたら改善できるかということまでは記載されておらず、そのまま記載できると良い。	個別の指標に対する評価を踏まえた今後の方向性となるよう「Ⅴ 施策の評価と今後の方向性」の記載を修正する。
2	「Ⅳ 事務事業評価」における「地域防災リーダーフォローアップ講座の受講者数」という活動指標は三角となっているが、地域で活躍される方の養成は重要であるため、この三角をどのようにしたら改善できるのか、今後の方向性についても記載をしていただくと良い。	同上
3	東海豪雨において備蓄品が水に浸かり使えなかったという記憶があり、東海豪雨から20年以上経ったが、現在の防災備蓄の状況については、どのように改善されているのか。	五条川の右岸側に防災備蓄倉庫としての機能を有する施設がなかったため、清洲庁舎跡地に防災備蓄倉庫の機能を有する鉄骨2階建ての五条川防災センターを整備した。また、令和6年度及び令和7年度において、市内の指定避難所にある防災備蓄倉庫の更新整備を行うとともに、倉庫内に収納する防災資機材等も整備する。
4	「Ⅱ 達成度指標の状況」において、目標値の達成見込が、二重丸、丸で評価されている。二重丸や丸という指標に関する説明として、二重丸は目標値を上回る、丸は目標値と達成となっているが、この評価の差が分からない。なんとなく二重丸が超過達成、丸は達成なのかと個人的に整理したが、ここに明確な基準があるのか、例えば、目標値を2割ぐらい超過していれば二重丸だとか、そのような形で評価されているかどうか、教えていただきたい。	二重丸が超過達成、丸は達成という整理で評価している。目標値を何割超過したら二重丸というような基準は第1回委員会時において特に設けていなかったため、基準を設け達成状況を再評価する。二重丸の評価基準については、全施策で統一し、後期計画目標値の数値を10%超過した場合（※「満足度調査における満足度」のように基準値より増加することを目標としている指標は、基準値から10%超過した場合）に二重丸と評価することにし、その旨をシート内に明記する。
5	「Ⅴ 施策の評価と今後の方向性」において、「赤十字奉仕団などの女性団体」という表記があるが、女性団体という枠組みで整理しても良いか。	赤十字奉仕団は女性団体ではないため、表現が適切でなかった。記載の意図としては、女性会員が多い団体へ参加依頼を行っていくという主旨であったため、表現を修正する。
6	「Ⅴ 施策の評価と今後の方向性」において、「訓練とマルシェを合わせて開催するなど」と記載があるが、自主防災訓練として、現状開催しているものを、別の場所や機会に訓練も体験していただくようなことをしていこうという考え方だと推察するが、この文章では、自主防災活動自体にマルシェを入れるという形に読み取れてしまう可能性があるため、記載について再度ご検討いただきたい。	人が多く集まる場で訓練を開催するという意図が伝わるよう表現を修正する。

2 「施策405 公共交通の充実」について

No.	委員会での意見	意見に対する考え方【関係所管課】
7	「Ⅱ 達成度指標の状況」の満足度調査の満足度について、基準値である平成30年度は30.4%、前回の令和3年度は29.1%と高い数値となっており、今回の令和5年度は21.7%と大きく下がってしまっている。次の総合計画の策定時には、おそらくこの令和5年度の数値が基準値として掲載されると思われるが、平成30年度や令和3年度に比べて、低い状況からスタートして上げていくというような目標になるかと思ってしまうが、次の計画における基準値をどのようにしたら良いと考えているか。	総合計画における目標値の考え方として、今の状態よりも高めていくという方向性で全施策共通して設定している。また、過去の状況と現在の状況が異なる場合もあるため、令和5年度を基準値とする予定である。
8	他の自治体では、コミュニティバスの運行費用の赤字が大きくなり、減便又は廃止されている状況があると耳にしたことがある。今後高齢化が進んでいくことに伴い、高齢者の方にとっては移動手段が少なく、コミュニティバスは貴重な手段となるので、なんとか運行を維持し続けていただきたい。	本市のコミュニティバス「あしがるバス」については、市民の生活を担う重要な交通手段になっていると認識している。本市においてもコミュニティバスの運行費用については赤字という状況ではあるが、自家用車等を利用できない方の日中の交通手段を確保するため、今後も持続的にコミュニティバスの運行ができるよう努めたい。
9	「Ⅱ 達成度指標の状況」の満足度が下がったことに対する分析について、もっと利用したいと考える人のさらなる期待によるのではないかということであるが、参考1の資料を見ると、満足した人、不満に思う人はどちらも減少し、どちらでもないと考えている人が増えているという状況である。不満に思う人が減っていることから、バスに関しては少しずつ改善されているのではないかと思いつつ、また、どちらでもないという人が増えていることを踏まえると、分析が適当と言えるかどうか、利用者数は伸びているけれど、満足度は下がっているという状況について、もう少し深い分析が必要ではないかと思う。	令和7年度を始期とする次期公共交通計画の策定のため、コミュニティバス「あしがるバス」の利用者を対象にした利用者ニーズ調査を令和5年11月に実施している。そのアンケート調査において、改善点に関する調査項目があり、最も多い意見は増便に関する内容であった。このことから、利用者の中でもっと利用しやすい環境にしてほしいという期待があることが分かる。この期待への対応については、運行費用と現状の利用状況とのバランスを踏まえ、持続的なコミュニティバスの運行の観点及び利用者の利便性向上の観点から検討していきたい。バスの利用者の増加については、継続したバスの乗り方の周知や利用促進活動の効果と考える。

3 「施策604 スポーツ・レクリエーション活動の振興」について

No.	委員会での意見	意見に対する考え方【関係所管課】
10	「Ⅳ 事務事業評価」における「清須ウオークへの協力団体数」という活動指標では、目標値9団体に対して、3団体という実績であるが、これは協賛企業を募って、もっと人を呼びたいというものなのか、どのようにしていきたいという目的によって、この数値の捉え方が変わるかと思う。	「清須ウオークへの協力団体数」という活動指数は、協賛企業を増やし、参加者を増やすという面と清須ウオークの全体的な協力体制や地域連携の状況を示す面もあると考えている。
11	満足度調査の重要度を見ると、重要であると考えている市民が減っており、市に頼らなくてもスポーツをやりたい人は、個人とか団体でやれてしまっていて、市が求められているスポーツに対する役割が変化していると感じられる。「Ⅴ 施策の評価と今後の方向性」の3つ目の記載において、「市民体育祭、市民ソフトボール大会等のイベントに人が集まらず運営に苦慮している」という形で記載されているが、人が集まらないのは、いろいろなニーズがあり、見直す時期に来ていると思う。そうしたことも踏まえて、市民体育祭のような個別のイベントに集中するのではなく、自由にスポーツができるようにしていくなど、今後は広くスポーツとして捉えて進めていくことも必要ではないかと思う。	核家族化の進行や地域のつながりの希薄化に伴い、地域ぐるみで取り組む環境づくりは以前と比べて難しい状況となっている。 家族を取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、地域への愛着や仲間とのつながりを深める取組が重要となっている。 そのための取組として、現在、市民体育祭や市民ソフトボール大会について実行委員会等を組織し開催しているところですが、今後は、にしばフェスティバルのように地域の方が自由にスポーツに参加できるようなイベントを検討していく。
12	市民体育祭、市民ソフトボール大会に関する検討について、この点に関しては積極的に参加したい、やらなくていいのではないかなど、様々な意見をお持ちの方がいると思うが、個人的な意見として、市民体育祭のようなイベントは、どちらかというと自治会で行うイベントであり、こうしたイベントを行うことで地域のつながりみたいなものが強くなってくると思う。スポーツという側面ではなく、コミュニティ活動という側面で捉えると、施策102の防災対策においてもつながってくるかと思うので、そうした面も踏まえながら、市民の声を1つ1つ聞きつつ、ご検討いただけるとありがたい。	今後もスポーツイベントを行うことで地域のつながりが強くなってくるという一面があるため、市民の声を1つ1つ聞きつつ検討していく。

4 その他（満足度調査・外部評価対象施策）について

No.	委員会での意見	意見に対する考え方【関係所管課】
1 3	行政評価の結果の中から、どうして3施策（※施策名を以下に記載）を外部評価対象としたのか、改めて教えていただきたい。 ・施策1 0 2 防災・減災対策の推進 ・施策4 0 5 公共交通の充実 ・施策6 0 4 スポーツ・レクリエーション活動の振興	過去3年間で1度も選出したことがない施策を前提とし、令和5年度に実施した第8回満足度調査の結果において、満足度の得点が全施策の平均以下の施策であり、それに加え、前回調査よりも満足度の得点が減少した施策より選出した。なお、その条件に該当する施策は全部で1 0施策あり、その中から市民の重要度が高かった施策を中心に選定しつつ、その他、議論の発展性を加味するとともに政策の偏りが生じないように選定を行っている。
1 4	満足度調査は、聞き方次第で結果が大きく変わるかと思う。また、満足されていないものをすべて市で何とか対応しなければいけないものかどうか判断がつかない考える。満足度調査から何を引き出し、どう対応していくことが市民の皆さんに喜んでいただけると考えるのかを、教えていただきたい。	回答方法としては、清須市第2次総合計画・後期基本計画に位置付けている3 7の施策に関して、現状の満足度と今後の重要度を5段階評価により回答していただく。なお、調査書類は、施策名とその施策の展開のみを記載し、施策という分野ごとに評価していただくアンケートとなっている。 本市は、第2総合計画で掲げる目指す将来像の実現のため、政策、施策という形で体系的に整理し、それぞれ施策の目指す姿を達成できるよう取り組んでいる。どこまでが市の役割かという議論もあると思うが、総合計画で掲げる施策は、どれも市として取り組むべきこととして考えており、どの施策においても市民の満足度を高くしていくことは重要であると考えている。その上で満足度調査は、多岐にわたる施策に関して、市民の生活実感を把握し、評価等に活用するとともに、その結果を真摯に受け止め、事務の改善等につなげていくことが実施する意義と考えている。